

平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月14日

上場会社名 株式会社 マーベラスエンターテインメント
 コード番号 7844 URL <http://www.mmv.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中山 晴喜
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 青木 利則
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

上場取引所 東

TEL 03-5793-9170

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	4,341	—	△328	—	△307	—	△237	—
20年3月期第2四半期	5,016	1.2	△364	—	△368	—	518	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	△2,818.25	—
20年3月期第2四半期	6,132.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第2四半期	7,835	—	2,379	—	29.4	—	27,362.99	
20年3月期	7,813	—	2,812	—	33.4	—	30,897.96	

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 2,304百万円 20年3月期 2,610百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	750.00	750.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	625.00	625.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	0.9	260	△26.3	230	△29.7	140	△82.3	1,660.12

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 有
- [(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。]
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | | | |
|----------------------|-------------|---------|-------------|---------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 21年3月期第2四半期 | 84,480株 | 20年3月期 | 84,480株 |
| ② 期末自己株式数 | 21年3月期第2四半期 | 267株 | 20年3月期 | —株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 21年3月期第2四半期 | 84,448株 | 20年3月期第2四半期 | 84,480株 |

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しています。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループを取り巻く環境におきましては、国内音楽ソフト市場の縮小傾向に歯止めがかかる中、有料音楽配信市場も引き続き堅調な成長を示し、音楽市場全体では緩やかな拡大を続けております。映像ソフト市場におきましては、販売用DVDは上半期実績としては2004年をピークに下降傾向が続いており、レンタル用DVDも初めて前年同期割れになるなど厳しい環境にあります。ブルーレイ（HD DVDを含む）の売上金額は前年同期比で倍増するなど新たな市場を形成しつつあります。家庭用ゲーム機市場におきましては、ハード市場は各機種種の普及が進んだこともあり前年を下回りましたが、ソフト市場は昨年並みの水準を維持しております。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）における当社グループの連結業績は、売上高4,341百万円（前年同期比13.5%減）、営業損失328百万円（前年同期営業損失364百万円）、経常損失307百万円（前年同期経常損失368百万円）、第2四半期純損失237百万円（前年同期純利益518百万円）となりました。

売上高におきましては、前上半期にアミューズメント事業から撤退したことや、デジタルコンテンツ事業において前年同期に国内外で計上された「牧場物語」シリーズのような大型タイトルのリピート受注が減少したため、前年実績を下回りました。

利益におきましては、音楽映像事業において海外市場の低迷により海外への番組販売収入が減少したことや子会社におけるアニメーションの制作受託の減少がありました。また、「家庭教師ヒットマンREBORN!」のロイヤリティ収入やDVD販売が好調に推移したほか、デジタルコンテンツ事業においてプラットフォーム戦略の見直しを行ったことにより採算性が改善したこと、舞台公演事業において「ミュージカル『テニスの王子様』」の夏公演の一部や「ミュージカル『DEAR BOYS』vs. EAST HONMOKU」を前倒して計上したこと等により、グループ全体の営業損失、経常損失は前年同期から改善いたしました。なお、前年同期におきましては、事業再編に伴う特別利益969百万円の計上がありました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

①音楽映像事業

音楽映像事業におきましては、アニメーションを中心とした優良コンテンツの音楽・映像商品（パッケージソフト）化とコンテンツの企画立案から二次利用までを行うマスターライセンス（映像著作権）保有作品の製作を行っております。

音 楽

平成20年上半期（平成20年1月～平成20年6月）における国内音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）の総生産金額は、洋楽は苦戦しているものの邦楽アルバムと音楽DVDの好調により1,817億円と横ばいとなりました。また、有料音楽配信は前年同期比128%の450億円と売上を伸ばし、音楽ソフト生産金額と有料音楽配信売上金額の合計は2,267億円と前年同期比104%となり、2005年からの前年比増加基調は継続しています。（社団法人 日本レコード協会調べ）

このような状況下、当事業におきましては「プリキュア」シリーズの企画音楽が好調に推移した他、専属アーティスト『中河内雅貴』、2008年4月にデビューをしたヴィジュアル系バンド『vistlip』の楽曲等を中心に商品を編成いたしました。

映 像

平成20年上半期（平成20年1月～平成20年6月）の映像ソフト市場は、販売用・レンタル用ともに減少し、前年同期比5%減の1,415億円となりました。一方で、ブルーレイ（HD DVDを含む）の売上は22億円となり、前年同期比で2倍近い伸長となりました。（社団法人 日本映像ソフト協会調べ）

このような状況下、映像事業におきましては、当期より新たに放送が始まった出資作品「スマイレ 16歳!!」、「恋姫†無双」、「S・A～スペシャル・エー～」、提供作品「Yes!プリキュア5GoGo!」、「遊☆戯☆王5D's」、「ケータイ捜査官7」等の映像商品化を行いました。2006年10月より放送が続く「家庭教師ヒットマンREBORN!」につきましては依然高い人気を誇り、関連商品のヒットによるロイヤリティ収入が増加するとともに、DVDの商品受注が好調に推移いたしました。また、「ミュージカル『テニスの王子様』DVD」につきましては、今夏の公演規模拡大による動員数の増加に伴い、昨年冬に行った舞台公演ならびに今春行ったコンサート公演の新作DVDとともに旧作DVDのリピート受注も順調に拡大いたしました。しかしながら、DVD受注は堅調に推移したものの、海外アニメーション市場の低迷により海外への番組販売収入が減少したことや、当期は子会社である株式会社アートランドにおけるアニメーションの受託制作の受注が下期に集中していることにより、減収減益となりました。

この結果、当第2四半期における音楽映像事業の業績は、連結売上高1,788百万円（前年同期比6.5%減）、連結営業利益144百万円（前年同期比20.9%減）となりました。

②デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業におきましては、据え置き型及び携帯型ゲーム機を中心としたデジタルエンターテインメントコンテンツの企画・開発・発売を行っております。

平成20年上半年（平成20年1月～平成20年6月）のゲーム市場規模は、ハードが1,272億円（前年同期比82.8%）、ソフトが1,621億円（前年同期比98.1%）、ハード・ソフト合計で2,893億円となりました。2007年のゲーム市場規模が過去最高を記録した主な要因はハード市場の拡大でしたが、ハード各機種の普及が進んだこともありハード市場は前年を下回りました。ソフト市場は、ミリオンタイトルも昨年の2本を上回る4本となるなど昨年並みの水準を維持しており、下半期に有力ソフトが多数登場するなど、2008年はソフト市場を中心に盛り上がりを見せております。（株式会社エンターブレイン調べ）

このような状況下、当第2四半期におきましては、国内新作につきましては、当社オリジナルシリーズの新作「ルミナスアーク2 ウィル（ニンテンドーDS）」、「VALHALLA KNIGHTS 2（PSP）」や著作権作品「一騎当千Eloquent Fist（PSP）」、「家庭教師ヒットマンREBORN! バトルアリーナ（PSP）」など、14タイトルを発売し366千本を出荷いたしました（前年同期は14タイトル285千本）。海外新作につきましては、他社からのアライズ強化し、「Ecolis - Save the Forest（ニンテンドーDS）」、「Super Swing Golf（Wii）」、「R-Type Tactics（PSP）」など7タイトルを発売し103千本を出荷いたしました（前年同期は1タイトル18千本）。旧作につきましては、国内においては「牧場物語 キラキラ太陽となかまたち（ニンテンドーDS）」、「赤川次郎ミステリー 夜想曲一本に招かれた殺人者」が、海外においては「NO MORE HEROES」がそれぞれ好調に推移しましたが、前年同期にリピートが好調だった「牧場物語 キミと育つ島（国内 ニンテンドーDS）」、「HARVEST MOON DS（海外 ニンテンドーDS）」のような大規模な受注がなく、国内リピート受注60千本（前年同期99千本）、海外リピート受注98千本（前年同期300千本）にとどまりました。また、当初、当第2四半期に発売を予定していた大型タイトル「アヴァロンコード（国内 ニンテンドーDS）」を戦略的に第3四半期発売へ変更したこともあり、当事業における売上高は、前年同期比で減収となりました。一方で、PS2市場の急激な減退に伴いプラットフォーム戦略の見直しを行い、ニンテンドーDSおよびPSP中心の商品編成へとシフトしたことにより、採算性は改善いたしました。

この結果、当第2四半期におけるデジタルコンテンツ事業の業績は、連結売上高1,948百万円（前年同期比19.9%減）、連結営業損失165百万円（前年同期連結営業損失299百万円）となりました。

③舞台公演事業

舞台公演事業におきましては、漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした興行ビジネスを展開しております。

当第2四半期におきましては、2008年5月にシリーズ史上最大の規模で公演した「ミュージカル『テニスの王子様』コンサートDream Live 5th」がシリーズ史上最高の観客動員を記録しました。また、前期には第3四半期の計上となった「ミュージカル『テニスの王子様』」の夏公演、「ミュージカル『テニスの王子様』The Imperial Presence氷帝feat. 比嘉」のうち7月から8月にかけて公演を行った東京・大阪公演の業績を計上いたしました。また、3月に公演した劇団「遊座 ASOBIZA」第二回公演「リンゴの木の下で ～昭和21年のジャズ」、前期に初公演を果たし好評を得て7月にシリーズ2作目の公演を行った「ミュージカル『DEAR BOYS』vs. EAST HONMOKU」のいずれも観客動員が好調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期における舞台公演事業の業績は、連結売上高611百万円（前年同期比201.2%増）、連結営業利益73百万円（前年同期比92.0%増）となりました。

※前年同期比は参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は前連結会計年度末に比べ22百万円増加しました。これは主に、仕掛品の増加207百万円、デジタルコンテンツの増加621百万円、投資その他の資産の増加188百万円、現金及び預金の減少234百万円、受取手形及び売掛金の減少757百万円等によるものです。

負債合計は前連結会計年度末に比べ454百万円増加しました。これは主に短期借入金の増加1,185百万円、支払手形及び買掛金の減少504百万円によるものです。

純資産合計は利益剰余金等が減少したことにより、前連結会計年度末に比べ432百万円の減少となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の連結業績におきましては、売上高は当初計画を下回ったものの、利益は計画を上回る水準で推移しております。

平成21年3月期の通期連結業績予想につきましては、為替の動向が不透明であることなどを慎重に検討し、連結売上高12,500百万円、連結営業利益260百万円、連結経常利益230百万円、連結当期純利益140百万円を見込んでおります。なお、詳細につきましては、平成20年10月21日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおりでございます。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 連結の範囲の変更

従来、連結子会社であった株式会社ランタイムは、第1四半期連結会計期間において吸収合併したため、消滅しております。

2. 会計方針の変更

①四半期財務諸表に関する会計基準の適用

「四半期連結財務諸表作成に係る会計基準(企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針(企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準適用指針第14号)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しています。

②リース取引に関する会計基準等の適用

「リース取引に関する会計基準(企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針(企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号)を第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理を引き続き採用しております。これによる四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

③棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

「棚卸資産の評価に関する会計基準(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,100,402	1,334,636
受取手形及び売掛金	1,422,040	2,179,709
製品	92,441	126,491
仕掛品	489,487	282,002
映像コンテンツ	178,961	312,308
デジタルコンテンツ	3,007,791	2,385,924
原材料及び貯蔵品	29,266	27,976
その他	777,150	648,302
貸倒引当金	△55,746	△74,742
流動資産合計	7,041,796	7,222,609
固定資産		
有形固定資産	210,955	198,687
無形固定資産		
のれん	80,349	96,419
その他	115,199	97,109
無形固定資産合計	195,548	193,528
投資その他の資産	387,465	198,528
固定資産合計	793,968	590,744
資産合計	7,835,764	7,813,353
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	693,768	1,198,394
短期借入金	2,450,342	1,264,842
1年内返済予定の長期借入金	400,212	17,312
未払法人税等	13,785	182,450
賞与引当金	81,411	90,276
返品調整引当金	23,137	22,914
その他	1,786,954	1,817,889
流動負債合計	5,449,612	4,594,079
固定負債		
長期借入金	—	406,953
その他	6,170	—
固定負債合計	6,170	406,953
負債合計	5,455,782	5,001,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	878,539	878,539
資本剰余金	880,059	880,059
利益剰余金	573,770	875,129
自己株式	△5,404	—
株主資本合計	2,326,964	2,633,728
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△22,645	△23,468
評価・換算差額等合計	△22,645	△23,468
少数株主持分	75,662	202,060
純資産合計	2,379,982	2,812,320
負債純資産合計	7,835,764	7,813,353

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	4,341,187
売上原価	3,298,746
売上総利益	1,042,441
従業員給料及び賞与	253,620
賞与引当金繰入額	61,223
広告宣伝費	484,021
その他	572,462
販売費及び一般管理費合計	1,371,328
営業損失(△)	△328,887
営業外収益	49,304
営業外費用	
支払利息	26,605
その他	1,040
営業外費用合計	27,646
経常損失(△)	△307,228
特別利益	
貸倒引当金戻入額	19,130
その他	1,187
特別利益合計	20,318
税金等調整前四半期純損失(△)	△286,910
法人税、住民税及び事業税	1,540
少数株主損失(△)	△50,451
四半期純損失(△)	△237,998

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
売上高	2,700,259
売上原価	2,044,645
売上総利益	655,613
従業員給料及び賞与	135,269
賞与引当金繰入額	31,198
広告宣伝費	250,418
その他	281,695
販売費及び一般管理費合計	698,582
営業損失(△)	△42,969
営業外収益	1,247
営業外費用	
支払利息	14,722
その他	900
営業外費用合計	15,622
経常損失(△)	△57,345
特別利益	
固定資産売却益	1,187
貸倒引当金戻入額	873
特別利益合計	2,061
税金等調整前四半期純損失(△)	△55,283
法人税、住民税及び事業税	877
少数株主損失(△)	△4,856
四半期純損失(△)	△51,304

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△286,910
減価償却費	58,576
映像コンテンツ償却額	357,221
のれん償却額	16,069
賞与引当金の増減額(△は減少)	△8,865
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△19,130
返品調整引当金の増減額(△は減少)	1,797
受取利息及び受取配当金	△526
支払利息	26,605
売上債権の増減額(△は増加)	758,214
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,212,314
仕入債務の増減額(△は減少)	△507,249
未払金の増減額(△は減少)	△351,486
未払印税の増減額(△は減少)	△143,707
未払消費税等の増減額(△は減少)	△18,335
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△188,107
その他の流動負債の増減額(△は減少)	400,753
小計	△1,117,394
利息及び配当金の受取額	526
利息の支払額	△28,417
法人税等の支払額	△159,374
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,304,660
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△43,581
有形固定資産の売却による収入	10,285
無形固定資産の取得による支出	△35,501
貸付けによる支出	△1,060
貸付金の回収による収入	500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69,358
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	2,018,102
短期借入金の返済による支出	△815,191
長期借入金の返済による支出	△24,053
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△114
配当金の支払額	△62,250
自己株式の取得による支出	△5,404
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,111,087
現金及び現金同等物に係る換算差額	28,697
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△234,233
現金及び現金同等物の期首残高	1,334,636
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,100,402

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しています。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

(単位:千円)

	音楽映像 事業	デジタル コンテンツ 事業	舞台公演 事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	1,788,147	1,948,063	611,889	4,348,099	(6,912)	4,341,187
営業費用	1,643,179	2,114,002	538,298	4,295,480	374,594	4,670,074
営業利益又は 営業損失(△)	144,967	△165,938	73,590	52,619	(381,506)	△328,887

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

(単位:千円)

	日本	イギリス	アメリカ	計	消去又 は全社	連結
売上高	3,982,209	365,023	—	4,347,233	(6,046)	4,341,187
営業費用	3,858,931	416,182	13,404	4,288,517	381,556	4,670,074
営業利益又は 営業損失(△)	123,278	△51,158	△13,404	58,715	(387,603)	△328,887

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

(要約) 前中間連結損益計算書

科 目	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
	金 額 (千円)
I 売上高	5,016,259
II 売上原価	4,044,922
売上総利益	971,337
III 販売費及び一般管理費	1,336,142
1 従業員給与・賞与	203,696
2 賞与引当金繰入	46,762
3 広告宣伝費	512,175
4 その他	573,508
営業損失 (△)	△364,805
IV 営業外収益	20,955
1 受取利息	289
2 受取配当金	402
3 為替差益	7,293
4 消耗品売却額	6,259
5 その他	6,709
V 営業外費用	24,814
1 支払利息	24,528
2 その他	286
経常損失 (△)	△368,664
VI 特別利益	977,077
1 貸倒引当金戻入額	3,683
2 固定資産売却益	3,529
3 事業譲渡益	112,382
4 関係会社株式売却益	857,481
VII 特別損失	21,801
1 固定資産売却損	16,517
2 固定資産除却損	5,284
税金等調整前中間純利益	586,610
法人税、住民税及び事業税	32,648
少数株主利益	35,882
中間純利益	518,080